

あなたも 高教組へ

2面 ・エバーグリーン
・子育て応援カフェ

しず
おか

高教組しんぶん

第485号
2023年
3月17日

発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
〒420-0004 静岡市葵区末広町 1-4
(高教組の事務所、移転しました)
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyouso.jp/
e-Mail info@s-koukyouso.jp
TEL (054) 254-6900 FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、
全教職員に配布しています

春闘決起集会

もう黙ってられない! 賃金上げろ!



2月19日(日曜日)、浜松と静岡で「2023年静岡県春闘決起集会」が開かれました。静岡の青葉緑地公園では、風雨にもかかわらず65名の参加者がありました。

実質賃金が減り、物価高騰で私たちのくらしは非常に苦しく、ロシアによるウクライナ侵略など平和への不安な思いを抱えている中、今年の春闘では三つの課題を掲げています。

1、賃金の大幅引き上げ。
エッセンシャルワークに従事するケア労働者の賃上げと、最低賃金の引き上げは特に重要で

2、岸田政権の敵基地攻撃能力の保有などを定めた「安保三文書」による空前の大軍拡をやめさせること。

3、医療公衆衛生や公務・公共体制の拡充、社会保障の充実。

高教組からの訴え

全教が昨年10月に行った教職員勤務実態調査では、教職員のリアルな勤務実態が明らかになりました。時間外勤務の上限(月

45時間)についてみると、約6割の人が「超えている」と回答、しかし実態調査では82.3%が上限を超え、100時間超も36.1%いました。

校内での時間外勤務は4週間で74時間32分、持ち帰り仕事を含むと86時間24分。週5日勤務で換算すると1日あたりでは5時間近くの残業となります。実際は土日の部活動などがあるので平日の残業は3〜4時間になると

毎日8時9時まで残業をしているという特別支援学校の若い教員の話を聴きます。また、祖父母の支援に頼ることができず、残業できないので仕事を持ち返るが、生活が回

らないのもう仕事を辞めようかと悩んでいるなど、子育て中の若い教員から悲痛な声が上がっていました。

静岡県では教員採用試験の倍率は小学校が3.1倍、中学校5.0倍、特別支援学校2.6倍、高校4.6倍とすべて下がっています。大分県では小学校が1.0という状態です。

教職調整額の4%は、給特法がつけられた1971年ごろの教員の平均残業時間が月約8時間だったところから算出されています。現在は月平均の残業時間は80時間を超えています。実際の勤務時間に

応じた賃金を支払う仕組みの構築、給特法の改正が必要ですが、同時に正規の教職員を増やさなくては、

主張

3月24日の再募集合格発表をもつて今年の入学者選抜が終了しますが、採点については懸念が残ります。

採点業務に際し、公正な採点のために皆が腐心しています。今回、管理職からは、茨城県で起こった採点ミスを教訓に、このようなことのないよう慎重な採点が呼びかけられました。

ところで、茨城県における採点ミス問題とは、2021年度の2年間で988件の採点ミスが判

高校入試採点の危うさ

これに対し茨城高教組は、「採点ミスは記述式の問題文等の入試問題の大幅な変更と長時間に及ぶ採点業務が原因である」と厳しく指摘

明し、本来は合格していた4人が不合格になっていたというものです。茨城県教育長は「現場で気の緩みがあったのかもしれない。早急に再発防止策の徹底を図り、関係者の処分を速やかにおこなう」として、全県立高

し、県教委と交渉をもちました。「これだけ多くの学校で採点ミスが2年続けて起こったのは、システム上の問題があったことは明らかです。採点に時間がかかる大幅な入試問題の変更を行いながら、

動採点して効率化を図り、採点ミスが多発した記述式の問題はほぼなくしました。(23年入試はわずかに増加するも字数制限などで自由度は低い)また、採点方法を「改善」し、2系統での採点とその照合などに

よる三重チェック体制をとりました。ただし、時間はかなりかかるようです。

21年1月実施の大学入学共通テスト(国語・数学)では、記述式問題の導入が予定されていた。しかし、「採点ミスの恐れ」「自己採点との不一致」質の高い採点体

多忙化解消も長時間労働の是正もありません。全国学力テストが始まって以来9年連続で不登校も子どもの自殺も、教師のメンタル疾患も過去最高。学校が行きたくない場になってしまっているのは、いまだに30〜40人も教室につめこまれ、価値観が多様化した

子どもや発達特性のある子どもに十分対応できない、ゆとりのない環境が影響しています。

子どもも教員も楽しく面白く学べる学校にするために、教員を大幅に増やし、給特法の改正により労働に見合った賃金の構築と長時間労働の是正を勝ち取っていきましょう。

3・1ピキニデー

「原水爆による被害者は私を最後にしてください」

3月1日に、3・1ピキニデー集会が行われました。

1954年3月1日、南太平洋マーシャル諸島ビギニ環礁でのアメリカによる水爆実験に遭遇した焼津のマグロ漁船「第五福竜丸」乗組員23人が被ばく、火傷、頭痛、嘔吐、眼の痛み、歯茎からの出血、脱毛など放射線による急性放射線症状を呈しながら帰港、9月23日久保山愛吉さんが「放射能症」で死去、他の乗組員や、他の漁船、マーシャル諸島の住民も多数被爆した「ピキニ事件」。これを機に、各地で核兵器の廃止を求める声が高まり、署名も始まりました。翌年、「原水爆禁止世界大会」が開催され、妻の久保山すずさんが愛吉さんの「原水爆による被害者は私を最後に」の言葉と共に核廃絶を訴えました。

今年には69周年、献花墓参行進には5000人余、弘徳院の久保山愛吉氏墓前祭には約700人が参加し、



視座

春は別れの季節。卒業や転職やらで。花に風のたとえもあるぞ。さ

よならだけが人生だ。花は咲いても散つてしまう。さ、友よ、今こそ酒を酌み交わそうと。コロナ禍も三年続き、マスク自由化も囁かれてはいますが、もう送別会はすでに懐かしい響きがします▼子どもの頃、黒い犬を飼っていました。実家に泥棒が入り、番犬として貰われてきた雑種犬、名前はクロ。ところがクロは人間が大好きで、誰が来ても大歓迎。まったく番犬としての役割は果たせませんでした。クロは短命で、一年とちよつとで死んでしまいました。人生には、愛と別れしかないんだ、と泣きあかしました。そして、涙が枯れた頃、人生には愛と別れしかないからこそ、別れの日が来るまで精一杯愛するしかない、と悟りました。クロの教えです▼短くも長くもないこの人生、フラれることが多かったなあ。別れはたくさん経験して。しかし、そんな中から学んだことがつあります。人生、別れより出会のほうが圧倒的に多いということ。ある組合の大先輩が定年の挨拶で言った言葉。今の自分に出会ひの総決算。いい出会いもあるでしょう。悪い出会いもあるでしょう。いい出会いも悪い出会いも、今があるのです。すべての出会いに感謝。教え子が教えてくれた言葉があります。出会いは一瞬、出会えば一生。なるほど。さ、春は出会いの季節でもあります。出会いの瞬を逃さないようにしたいと思います。高教組との出会いも、まだの方はぜひ。

エバーグリーン藤枝第19回企画

市田真理さん
私の「語りつぎ部」宣言
～第五福竜丸は
核のない世界を求めて今も航海中～



焼津高校演劇部による「ばらの祈り」朗読

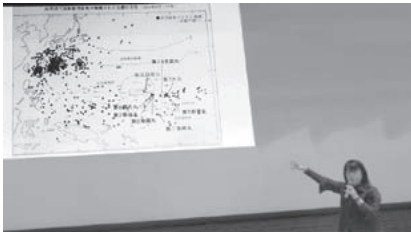
3月12日(日) 藤枝市生涯学習センターで、エバーグリーン第19回企画「市田真理さんから学ぶ 平和の『語りつぎ部宣言』」第五福竜丸は今も航海中」が行われました。24人の高校生実行委員を含め、100人を超える参加がありました。

当日は高校生が司会をつとめ、実行委員長岡崎航平さんがあいさつ。高校時代からエバーグリーンに関わり、第五福竜丸に乗組員の方々の聴き取りをしたことや、高知幡多ゼミナールとの交流、久保山愛吉さんのばらの苗木を受け継ぎ育て、広めていることを報告しました。

オープニングでは、昨年の藤枝市平和展でも活躍した榛原高校の「White Cat Is Good」が、Vaundyの「怪獣の花唄」を演奏、「君がいつも歌う怪獣の歌 まだ消えない 口ずさんでしようよ」「忘れられないんだよ」だから僕が歌うよ」と会場を盛り上げました。

市田真理さんのお話
学ぶとはなにか？

メイン企画は市田真理さんの「語り継ぎ部」宣言。絵本「大砲の中のアヒル」「モモちゃんとおう」「クレヨン ドローン」の中で育ち、現在は第五福竜丸展示館学芸員。写真、グラフ、図などを駆使し、



太平洋で放射能汚染魚が漁獲された位置

ひいては世界の環境に対する大きな破壊だったからです」と広い視野から説明。

1954年当時、「魚だけでなく、米も野菜も汚染」に人々は怒り、「ふざけんじゃないわよ」と核兵器廃絶の署名が始まりました。さらに「戦争は嫌だ！高校生は訴えます！」と東京全都の高校生の呼びかけ、入院中の愛吉さんや、夫を亡くしたすすきんへの励ましの手紙が、全国の子どもや中高生から寄せられました。焼津はもちろん、藤枝西高や志太榛原地区からも。

「原子マグロ」と呼ばれ、命がけで獲ってきたマグロが捨てられる無念、食べものや住む環境さへ脅かされる不安、自分だけでなく子どもの健康や命に係わる恐怖、3・11で愛する人や家族を亡くし、住

語りつぎ部宣言

元乗組員で、差別と見舞金への妬みから逃げるように東京でクリーニング店を始めた大石又七さんは、長い間、口を閉ざしていました。夢の島で船が見つかり、展示館ができ、中学生から「本当のことを教えて」と求められ、語り始めます。



映画「ゴジラ」のポスターと俳優宝田明さん

とにかく伝えなくてはと怒るように語り続け、生涯にわたって700回以上の講演会を行ないました。晩年、車いすに乗る又七さんを助け50回以上のコラボ講演を行ないながら、命がけで語る大石さんの生きる姿勢から「人が真剣に生きるとはどういうことか」を学び、「語り継ぎ部」になる決意をします。

次回夏に開催
アンケートでは、次回は対面でできたらいいなという声も寄せられ、嬉



市田さんを囲んで記念写真

「記者がひもとく『少年』事件史」

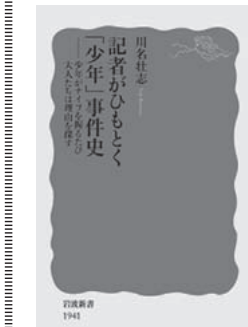
川名壮志 著 岩波新書

話題の本を読む12

それほど話題になっていないわけでもないが、少年とかかわることの多い高校教員に紹介したい。

この本は戦争直後の時期から、少年の殺人事件を新聞がどう取り扱ったかを時代を追って論じている。浅沼稻次郎、殺害犯の山口二矢(おとや)(17)や連続ピストル射殺事件の永山則夫(19)から始まり、現代に至る少年事件の報道形態が、その社会や制度の変化によって変わっていく過程が述べられている。

まず、敗戦直後の不安定な社会での報道は、少年犯罪にも実名を使うなど、手加減しなかった。それが、混乱を脱し日本社会が徐々に安定してくると、報道協定が結ばれ、少年は匿名で伝えられることになる。いわゆる「少年A」である。その後少年事件はこの原則が引き継がれている。それを象徴するのが1997年の神戸連続児童殺害事件である。犯人は酒鬼薔薇聖斗と名の14才の少年だった。この事件は謎の殺害者を名づけた犯人が神戸新聞へ手紙を出したことで大きく報道されたが、その詳細には触れなかった。少年への配慮である。司法や報道機関が少年の犯罪を親目線で見る。この教育する側の



事件が起ったのかという原因究明と改善につながる情報公開され記憶することが求められている。(Y)